



学校だより

令和 7 年 1 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

見えていないことが、見えるようになるために

冬休み中、大きな事件や事故の報告がありませんでした。「自分の命は自分で守る」ことが、しっかりとできたのだと思います。素晴らしいです。また、子どもたちから面白いエピソードをたくさん聴くことができました。楽しい冬休みを家族で過ごした姿が目に見え、嬉しかったです。3学期、よいスタートが切れました。ありがとうございます。

さて、インフルエンザに罹患した子どもが多くなってきました。高熱等により辛く苦しい思いをしている子が増えています。閉鎖措置をとった学級もあります。感染拡大が続くと通常の教育活動ができなくなります。インフルエンザから肺炎やインフルエンザ脳症になってしまう場合もあります。子どもの命と健康が最優先です。感染症による学年閉鎖や学級閉鎖等へのご理解ご協力をお願いします。

学校では、「手洗い、うがい、マスク」など感染予防の徹底をするとともに、インフルエンザ等の感染症から「自分の命を自分で守る」ための学習の機会と捉えています。子どもたちは、知っているようで知らないことも多いです。例えば、「どうして、手洗い、うがいをするとういのか」「マスクはどれぐらいの効果があるのか」「ウイルスとは何か」「高熱が出るのはなぜか」「インフルエンザが流行すると加湿器が売れるのはなぜか」「インフルエンザウイルスに負けない体を作るにはどうすればよいのか」「ウイルスをやっつける方法はあるのか」など、です。子どもたちに問うと、いろいろな意見が返ってきます。インフルエンザのように目に見えないものは分かりにくいものです。大昔の人は鬼や呪いのせいにしていたわけです。正しい知識を学び、正しく判断し行動できるようになってほしいです。インターネット等を活用して調べたり、感染症から自分の体を守る方法を学んだりする契機になるとよいとも考えます。数十年後にコロナウイルスのようなパンデミックが起こる可能性があるという人もいます。感染症の仕組みや予防等の知識を学ぶことは非常に重要だと考えます。また、分からないことを調べて学ぶこと、自分に降りかかる困難な問題に対応するために、正しく考え行動できる力を育てていくことも必要だと言えます。

学校で学ぶことの大きな目的のひとつは、インフルエンザと同じように、「見えていないことが見えるようになるため」だと、私は考えます。例えば、国語。漢字やひらがなを学べば物語等の文章を読むことはできますが、それだけでは登場人物の心情や著者が伝えたかった主題を正しく読み取ることは難しいです。物語には「主人公の気持ちは○○だ」とは書いてないからです。だから、授業を通して、登場人物の気持ちなど「見えていないことが見えるようになるため」に学習しているのです。算数では、数値化したり計算したり図形化したりすると見えていなかった解法が見えてきます。理科では、日常生活における不思議な自然現象の原因が実験などを通して見えてきます。社会では、見えていない社会の仕組みや原理が地理・歴史・文化等の考察から見えてきます。道徳では、主人公の行為を問うことなどを通して、物事の善悪、見えていなかった友達の優しさ、家族の思いやり、自分の本当の気持ち等が見えてきます。こんな「見えていないことが見えるようになる」力を育てているのです。よりよく学んだ人は、よりよく世の中が見えている人です。そして、様々な問題を解決していくことができる人です。そういう力を育てたいです。